

平成14年 4月 2日

報道機関 各位

広島大学総務部大学情報室長
西田良一

広島大学入学式の挙行について

平成14年度広島大学入学式を下記のとおり挙行しますのでお知らせします。
つきましては、『[式次第](#)』、『[学長訓示](#)』、『[入学者数](#)』及び『[学生表彰者一覧](#)』を別添
のとおり送付します。
なお、式場で取材をされる場合は、自社の腕章を着用していただくようお願いしま
す。

記

日 時 平成14年4月3日(水) 11時開式
場 所 東広島運動公園体育館
(東広島市西条町大字田口67番地の1)

【お問い合わせ先】
広島大学総務部総務課課長補佐
戸澤滋憲
TEL:(0824)24-6012
(ダイヤルイン)

[発信枚数:A4版 8枚(本票含む)]

平成14年度 広島大学入学式

日時 平成14年4月3日(水) 11時開式
場所 東広島運動公園体育館

式次第

11:00

開式の辞
国歌演奏
広島大学
入学許可
宣言
広島大学
大学院入
学許可宣
言
学長訓示
学生表彰
広島大学
歌合唱
閉式の辞

(11:30 終了予定)

訓 示

皆さんご入学おめでとうございます。ご参列のご家族の皆さん、まことにおめでとうございます。

本日は、入学生の皆さんを迎えるにあたって、「評価」という言葉について考えてみたいと思います。

入学生の皆さんにとっては、評価といえば学校での成績評価が思い出されるでしょう。学期末になって成績が知らされる頃になると、いやな思いをした人もあるでしょうし、逆に、成績発表が待ち遠しかった人もあるでしょう。

評価は、生徒の成績評価に限ったことではありません。こんにち、大学という組織も評価の対象になっていて、その成績が点検され評価されています。一般社会に目を向けると、企業等においては、個人単位でも部課単位でも、多様な形で評価が行われています。社会のどこに居ても、我々は評価にさらされているのです。評価という概念は、近年、組織等の改革改善のためのステップとして、重視されています。

我々日本人は、実は、この評価という営みを、別の言葉を使って、古来から実践しています。子供の頃、我が儘を言っていると、よく「近所の人に笑われますよ、恥ずかしいでしょう」と言われたものです。かつて武家の社会では、恥を最も嫌い、世間の目というものを強く意識しました。これを、日本の伝統的な「恥の文化」と考えたのは、第2次世界大戦中の日本研究をもとにして「菊と刀」を著したルース・ベネディクトです。

恥と言えば、世間体ばかりを気にする感心しない風習という否定的な見方をされることもあります。しかしながら、人が本来なすべきこと(目標)に向けての努力を怠り、目標が達成されない時に、まわりから低い評価をされることをもって「恥」と考えるとすれば、恥という概念を前向きにとらえて考えてみるのも無意味ではありません。前述の「近所の人に…」は、「周りから悪い評価を受けないように人間としてしっかりしなさい」と言い換えることもできるでしょう。恥が、目標を達成していない時の低い評価だとすれば、目標を見事に達成した時の高い評価は「誉」です。だから、恥の文化は「誉の文化」とも言えます。恥や誉は評価の結果です。この両方をもたらす作業に対する適切な言葉は「評価」に他なりません。

このように考えると、評価は、我々日本人にはお馴染みの考え方であるといえます。最近、個人や組織に対する評価の重要性がクローズアップされ、制度面でも整備されつつあります。現代社会では、個人も組織も常に評価にさらされているといえます。入学してくる皆さんは、広島大学でももちろん成績評価を受けますが、評価はそれだけではありません。皆さんが属することになるセミナーや研究室などの組織も、皆さん自信の行動も評価の対象となります。皆さんの日常の一挙手一投足が周囲の人々によって評価を受けていると言っても過言ではありません。あらゆる評価に耐える実力を磨き、自らの人間形成に励んで頂きたいと思います。評価の結果、問題点があれば、当然その点を改善すべきです。評価の結果は常に改革改善につながるべきなのです。皆さんがまわりから評価を受け、それをもとに自己を改善し、卒業後に高い社会的評価を受けてくれることを願っています。皆さんが社会的に高い評価を受けるということは、とりもなおさず、広島大学の評価が高まることを意味します。

新入生の皆さんが、高い目標を掲げ、それに向かう努力によって自らを磨き、どのような評価にも耐える実力と人格を備えてくれることを期待します。

平成14年4月3日
広島大学長
牟田 泰 三

平成14年度 広島大学 入学者数

学部生	2,493名
専攻科生	5名
大学院生(博士課程前期)	1,227名
大学院生(博士課程)	121名
合計	3,846名

外国人留学生(内数) 111名(21カ国)

○[学部・専攻科入学者数](#) ○[大学院入学者数](#)

表 彰 者 一 覧

平成14年4月3日(水)(入学式)

① 学術研究活動 大学院生 (規程第2条第1号該当)

候補者氏名又は団体名	表彰に値すると認められる行為等
大学院先端物質科学研究科 博士課程前期 量子物質科学専攻(M13) 北丸 大輔	次世代半導体の鍵を握る、特別な不純物イオン注入技術(ポケット注入技術)を世界で初めてモデル化し、正しい回路シミュレーションを実現した。このモデルは特許申請をし、当該領域で最高レベルの国際会議(International Conference on Simulation for Semiconductor Processes and Devices, アテネ, 2001)においても自ら発表を行った。

② 課外活動 (規程第2条第2号該当)

候補者氏名又は団体名	表彰に値すると認められる行為等
川口 絵美(教・教11) (柔道部)	平成13年度第10回全日本学生女子柔道優勝大会(三人制)において優秀選手賞を受賞 大会開催日:平成13年6月23日 日本武道館 各地区の代表36チーム(総登録者数163名)中、ベスト4(2年連続)
三島 明子(教・教11)	第11回日本クラシック音楽コンクール全国大会 管楽部門(トランペット)において審査員特別賞を受賞 大会開催日:平成13年12月24日 バルテノン多摩 小ホール
藤岡 敬巳(教・教11)	第7回 KOBE 国際学生音楽コンクール打楽器部門において優秀賞を受賞 大会開催日:平成14年1月14日 神戸文化ホール 中ホール

平成14年度広島大学入学者数

■ 学部入学者

学 部	入 学 者 数	筆 頭 者 氏 名
総 合 科 学 部	135 (86)	あおしま さき 青島 早希
文 学 部	◎ 1 (1) 147 (93)	あおき ひろし 青木 大
教 育 学 部	◎ 1 (1) 530 (323)	あおやま けいこ 青山 慶子
法 学 部 (昼 間 コース)	152 (76)	あかさか あきこ 赤坂 秋子
法 学 部 (夜 間 主 コース)	74 (28)	あおき しげき 青木 滋紀
経 済 学 部 (昼 間 コース)	156 (52)	あきなが さき 秋永 早紀
経 済 学 部 (夜 間 主 コース)	69 (21)	あきたけ みゆき 秋武 美由貴
理 学 部	◎ 1 (0) 252 (62)	あきた ともゆき 秋田 智之
医 学 部	286 (187)	あい はら かずひと 相原 一仁
歯 学 部	55 (24)	あおやま もとこ 青山 素子
工 学 部	◎ 7 (3) 529 (68)	あべ ゆうや 安部 裕也
生 物 生 産 学 部	108 (51)	あかぎ ひろみ 赤木 宏美
計	◎ 10 (5) 2493 (1071)	

■ 専攻科入学者

学 部	入 学 者 数	筆 頭 者 氏 名
特殊教育特別専攻科	5 (4)	かめい あさか 亀井 朝香

(注) ◎は外国人留学生を内数で示す。
()内は女子を内数で示す。

平成14年4月 広島大学大学院入学者数

研究科名	博士課程前期	博士課程	筆頭者氏名
文学研究科	◎ 1 (1) 64 (26)		あきた かおり 秋 田 香 織
教育学研究科	◎ 19 (12) 196 (88)		あんどう ちかこ 安 東 千 賀 子
社会科学研究科	◎ 15 (10) 120 (49)		あしだ まちこ 芦 田 真 知 子
理学研究科	149 (33)		あ べ ゆ き 安 倍 友 紀
先端物質科学研究科	◎ 4 (2) 102 (11)		あかぎ みほ 赤 木 美 穂
医歯薬学総合研究科	57 (31)		あかぎ のぶゆき 赤 木 伸 之
		◎ 10 (7) 121 (32)	あしかが あらた 足 利 新
保健学研究科	◎ 1 (1) 36 (23)		あなん まさや 阿 南 雅 也
工学研究科	◎ 16 (7) 332 (25)		あきたけ のりゆき 秋 竹 教 行
生物圏科学研究科	◎ 4 (0) 114 (28)		いそべ しげひと 磯 部 繁 人
国際協力研究科	◎ 31 (14) 57 (24)		あんすじゃ びんだ だまやんてい ANSJAR,VINDA DAMAYANTI
合計	◎ 91 (47) 1227 (338)	◎ 10 (7) 121 (32)	

注 ◎印は外国人留学生で内数
()内は女子で内数